

## 9月16日から17日の大雨災害について

### 天気概況

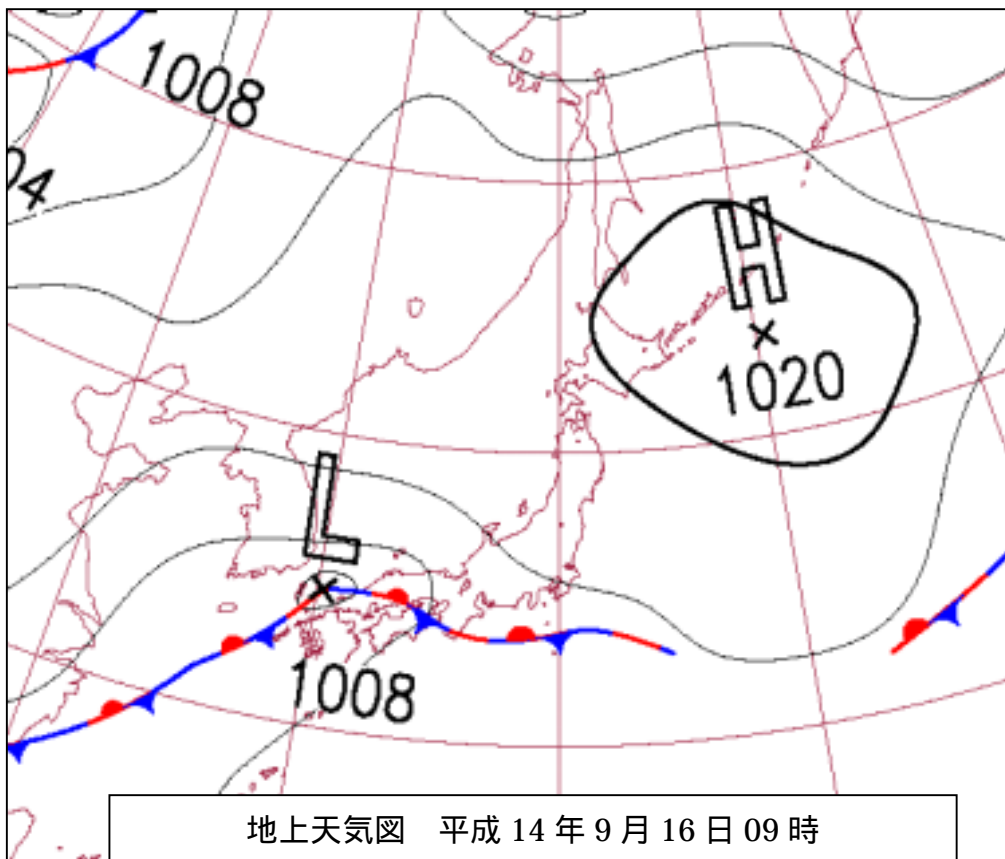
低気圧が16日午前中、対馬海峡を通過した。この低気圧から南西にのびる寒冷前線が、活動を強めながら16日の昼過ぎから夜にかけて九州北部地方をゆっくり南下した。このため、16日は福岡地方を中心に日降水量が150mmを超え、各地で1時間50mmを超える非常に激しい雨が降り記録的な大雨となった。

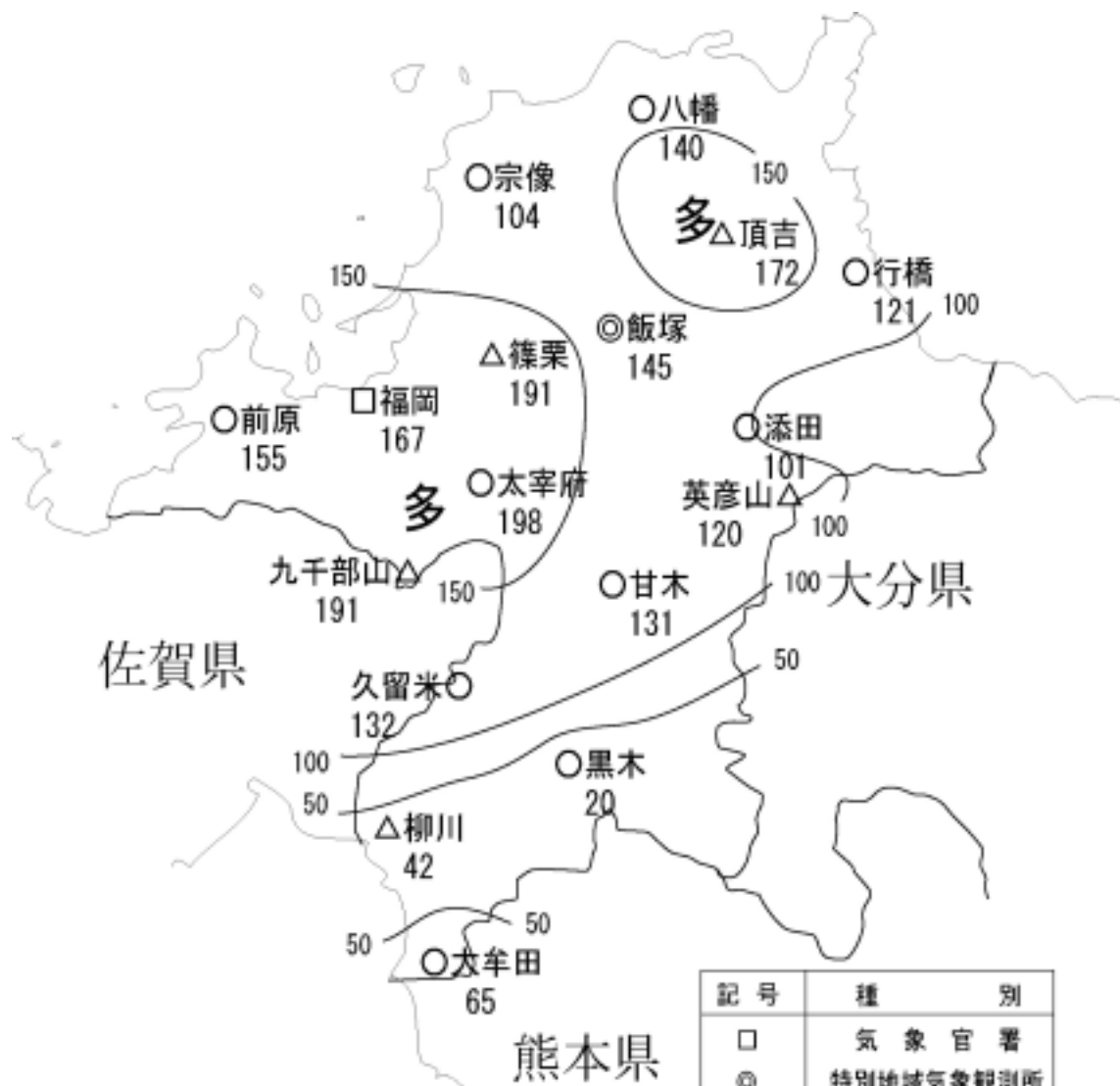
2日間の総雨量の多い地点は、太宰府198mm、九千部山191mm、篠栗191mm、頂吉172mm、福岡167mm、前原155mmなどであった。

16日の日降水量の多い地点は、太宰府196mm、篠栗188mm、九千部山173mm、頂吉168mm、福岡163mm、前原147mmなど、17日の日降水量は各地点20mm以下であった。

また、1時間降水量の多い地点は久留米66mm(16日19時)、九千部山64mm(16日18時)、太宰府56mm(16日18時)、頂吉51mm(16日14時)、甘木48mm(16日19時)、飯塚43mm(16日14時)、大牟田41mm(16日20時)、篠栗41mm(16日18時)などであった。

- ・9月における1時間降水量としては、久留米66mm、九千部山64mm、太宰府56mm、甘木48mmと、それぞれ観測開始以来最も多い記録を更新した。
- ・9月における任意の1時間では、飯塚55mmで観測開始以来最も多い記録を更新した。
- ・9月における日降水量は太宰府で196mm、八幡で136mm、甘木で127mm、行橋で118mmと、それぞれ観測開始以来最も多い記録を更新した。なお、福岡の164mmは観測史上2位、飯塚の142mmは観測史上5位であった。





総降水量分布図(mm)  
平成14年9月16日～17日

### 降水量(平成14年9月16日～17日)

単位:mm

